けんせつ

東京土建のホームページ　http://www.tokyo-doken.or.jp/

印刷部数11万3500部
（購読料は組合費のなかに含まれています）
（年間購読料　千八百円）
定価　五十円

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03（5332）3971（代表）
FAX03（5332）3972
発行人・編集人
三木　勉

前進座10月公演「柳橋物語」

原作は山本周五郎。若い職人と幼馴染がひたむきに生きる姿を描きます。【とき】10月15日、15時30分開演【ところ】日本橋三越劇場【料金】組合員特別価格5500円【申し込み】支部事務所まで

労働条件を変える チャンスを活かそう 1

年金加入して妻も喜ぶ

小平東村山の三輪さん語る

建設業の社会保険加入の徹底が進むなか、大手2次下請の型枠工事業の会社で、今年から正社員となった小平東村山支部の三輪剛さん（35歳・型枠大工）にお話を聞きました。

―正社員になった経過を教えてください

今の会社で約3年前から社員希望でした。ちょうど保険等をかけなくてはいけないと国が言い始めた頃です。うちの会社もやってと言ったら、うちはやらないと、言うことを聞かない。では僕は会社を出ると、二人の先輩と3人で会社を出ました。2年半くらい外で稼ぎました。そのうちに社長が亡くなって代替わりしました。その時に全部そろえるから戻ってと言われ、戻るけれども条件を出すと、土建国保の適用除外、厚生年金と雇用保険、週40時間を守れということを提示しました。それらを飲むと言われ、4月から社員として戻りました。

ブラックから灰色になったと話す三輪さん

支部では青年部長とPALの会長をずっとやっていて、PALと賃対部から社会保険加入のことをいろいろ聞き、常任執行委員会で出てくる話でも、うちは完全にブラック企業だと思いました。そこで少しは変えたかったのです。

―社会保険に加入して、ごぎました。この日の加入持ち寄りは14分会から28人分。「幸先のいいスタート」（色摩組織部長）となりました。

家族の反応はいかがでしたか

妻に厚生年金に加入したと話したら、よかったねと言われました。妻は私自身よりも気にしていました。ただ、これから社会保険をかけ続けていくのですが、期待よりも不安が大きいです。いつになったらもらえるのだろうとか。だから厚生年金以外はよかったなと思っています。

―週40時間はどのように守られていますか

週40時間ですが、働く日数は変わらないです。土曜の後半を残業で補てんするということになりました。1日7時間労働でいくと土曜日の2時か3時で40時間です。5時までの残りの時間は残業扱いです。ブラックから灰色くらいにはなりました。ただ、日曜出勤や夜勤はあります。

―これからの課題はなんでしょうか

会社は法定福利費の請求はしましたが、単価が下がりました。ということはもらえていないということです。きちんと請求して払ってもらえれば、給料が上がります。元請や1次の人にもちょくちょく言っています。私が土建で活動していることは知っており、大手企業交渉へ行くので休むと言ったら、行って来いと、半分、冗談もありますが、そのように言う元請の番頭さんもいるんです。

新国立で現場改善

仲間の声が変えさせた

［本部・賃対部発］過労自殺事件を受けて運動を強化していた新国立競技場建設現場で、就労環境改善の動きが明らかとなりました。運動の貴重な成果です。

●早すぎる新規入場者教育（6時半）を30分遅らせ7時からに

仲間から多数の苦情が寄せられていた件で、組合としては8時以降の実施を求めてきました。不十分な改善ですが、仲間の声で変えさせたことは間違いありません。引き続き8時以降の実施を求めていきます。

●給水・製氷コーナーの管理を元請・大成の責任に

仲間からの情報で、現場事務所の給水・製氷コーナーの管理を下請業者にやらせていることがわかり、宣伝で取り上げてきました。現場調査に入った国会議員の情報によれば、「土建さんに言われ、今後は大成で管理することになった」とのことです。

練馬支部拡大決起集会でのダルマの目入れ

練馬

楽しく苦しい月間

幸先のいいスタート

練馬支部は、9月1日、学習拡大決起集会&出陣式を練馬支部会館で164人が参加して行ないました。

冒頭、支部を代表して上原誠委員長は「楽しくて苦しい拡大月間が始まります。すべての分会が達成して、打ち上げではおいしいお酒を飲みましょう」とあいさつしました。

学習は本部の小番徹書記次長が「建設産業をめぐる情勢と拡大運動の課題」と題して講演。「東京土建全体では11年ぶりに実増で秋の月間を迎えました。やらされている活動でなく主体的に取り組み、変化と発展を実感できる月間にしましょう」と話しました。その後、色摩ひな子組織部長が拡大月間成功への訴えと全分会達成に向けてダルマの目入れを行ないました。

出陣式では各分会の代表が決意表明。「年間目標13%まで残り5人ですが…。本日、5人分の加入書を持ってきました」（桜台）などの発言が相次ぎました。この日の加入持ち寄りは14分会から28人分。「幸先のいいスタート」（色摩組織部長）となりました。

多摩西部

若い人が先頭に

拡大決起集会で訴え

多摩西部支部は9月3日、昭和記念公園BBQガーデンで「秋の拡大決起集会」を開催。全12分会から約290人が参加しました。

檜山委員長は「これからの50年を盛り上げていくには、10代20代の方々にこの先、役員になっていただき、運動の先頭に立っていただくことが重要です」と、若い世代の組合参加を訴えました。

この日の目玉イベントの50V型液晶テレビなどの豪華賞品が当たるクイズ大会で、テレビを手にした事業所分会の芳﨑蓮さん（21歳）は組合加入2年目で、組合行事にはこの日が初参加。「これからはもっと組合のイベントに顔を出すようにしたい」と話してくれました。

木下組織部長は「拡大成果の持ち寄りが32人ありました。この勢いに乗って、50周年の1月1日現勢を3800人で迎えたい」と総括。好調なスタートとなりました。

加入持ち寄り進む月間序盤戦

朝やけ

■小池都知事は6月、中央卸売市場について「築地は守る、豊洲は活かす」と言って、都議選を乗り切った。しかし、その後の都議会臨時会では豊洲移転を速やかに実現するための補正予算案を提出し、成立させてしまった。この間、小池都知事に対して築地市場協会と東京魚市場卸協同組合が豊洲の安全宣言を出すよう要望しているが、市場問題プロジェクトチームが8月に出した最終報告書では安全宣言は必要ないとしており、小池都知事がこの報告を無視して安全宣言を出すことはないだろう。

■最近、築地は海外からの観光客が増えているそうだ。海外ではガイドブックで築地が紹介されるほど日本食がブームになっている。一方で日本人の魚介類消費は減っている。とくに高級魚などは敬遠されているようだ。鮮魚を扱う小売店も減少、魚を買うのはスーパーという人が増え、手ごろな価格の魚が選ばれて消費されている。

■このままでは日本の魚食文化は衰退するかもしれない。目利きの仲卸業者が築いてきた「築地ブランド」はそれを食い止める希望ではないのか。しかし築地と豊洲を行ったり来たり出来る仲卸業者はどれだけいるだろう。豊洲移転の問題は日本の魚食文化の行く末を左右しているのではないだろうか。